

6年 道徳学習指導案

6年1組 38名 指導者 端 村 達 也

1 総合主題名 よりよく生きる

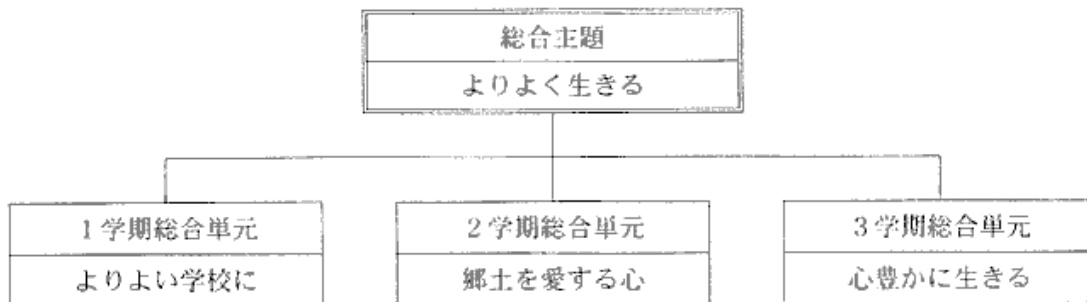
2 総合主題について

今日の科学技術の目覚ましい進歩とは裏腹に、身の回りの自然や生命を持つものへの慈しみが軽視する風潮が生まれてきた。現代社会では、地域社会の果たす役割が弱くなってきており、ともすると、人間関係が円滑に図れず、人間疎外や断絶を生むようになってきている。そのため、私たちが本来もつべき他者とのかわりが希薄になったり、生命の自覚の欠如にも見られる。

人は、他者とかかわり、豊かに生きることで、よりよく生きていくことができる。自分のことだけでなく自分や周囲の人たちの命を大切にし、共に支え合って生きていくことが必要である。

そこで、児童一人一人が自他の生命の大切さを自覚し、周囲の人たちの願いをしっかりと受け止め、互いに支え合ってよりよく伸びていってほしいという願いを込めて、総合主題「よりよく生きる」を設定した。

総合主題「よりよく生きる」の単元構成は、次の図のとおりである。



3 2学期総合単元名 郷土を愛する心

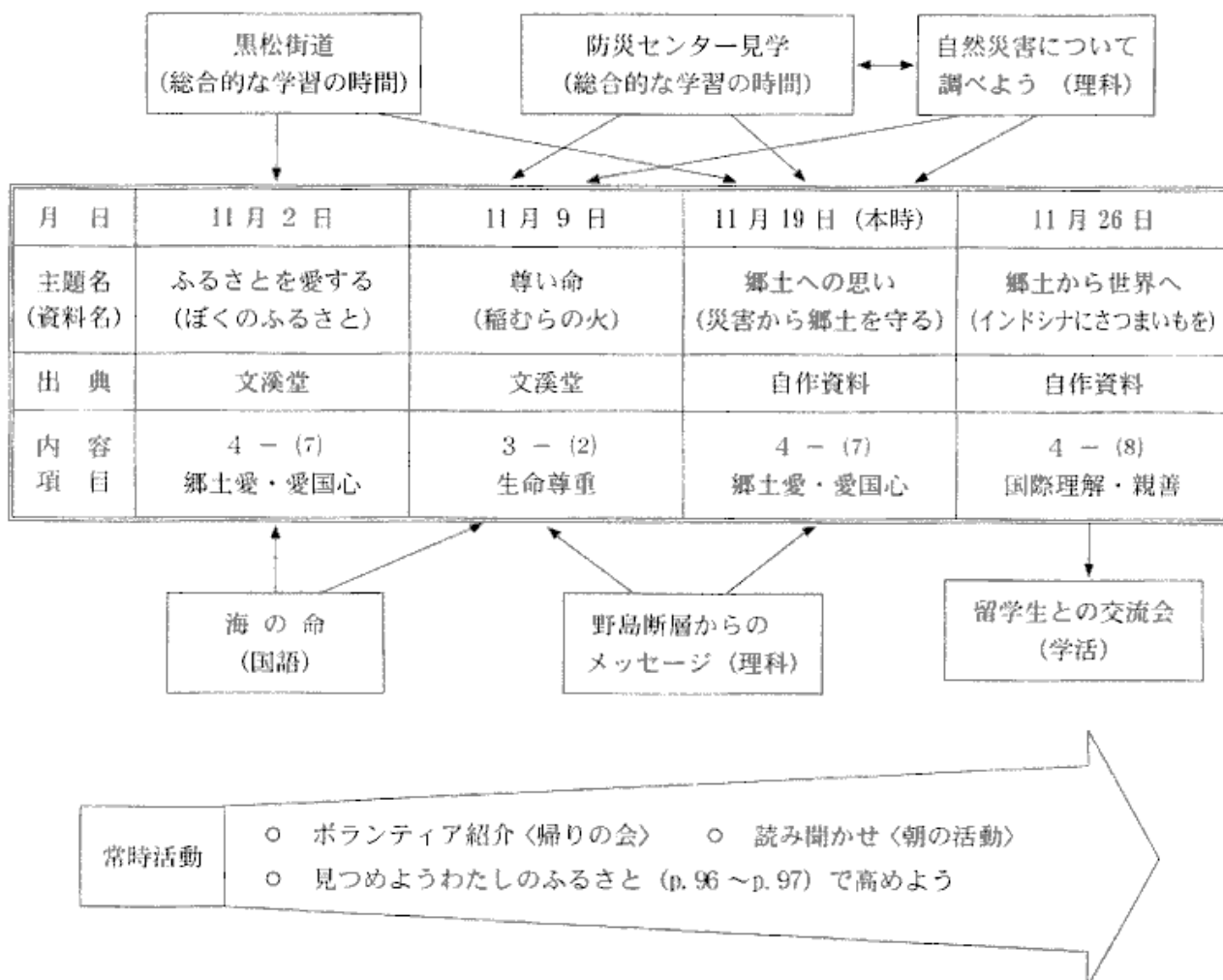
4 総合単元について

(1) 単元設定の理由

1学期総合単元「よりよい学校に」では、一人一人が6年生としての自覚をもち、みんなで協力しあいながら、常に自分で考え自主的に行動していくことが、自分自身を向上させるということを学んだ。その結果、里浦小学校の一員として、一人一人が自分たちで学校をよりよくしていこうとする意欲をもち、積極的に取り組む姿が見られるようになった。

2学期は、1学期の成果を踏まえ、自分の生まれ育った郷土に視野を広げ、郷土を正しく見つめ直し、郷土を愛する心をもたせたい。そのためには、自分たちの郷土についてよく知り、郷土の素晴らしさや先人の苦勞・偉業を知ることが大切である。今の私たちの豊かな文化や生活は郷土のために尽くした先人の熱い思いと努力の上に成り立っていることを知り、誇りうるふるさとを堂々と語れる人間になってもらいたい。また、郷土の未来を考え、どんな郷土にしていくかを考えることは、自分自身の生き方を考えることにつながってくるものと考え、総合単元「郷土を愛する心」を設定した。

(2) 単元の構想



5 本時の学習

(1) 主 題 名 郷土への思い

(2) 主題設定の理由

<ねらいとする価値について>

4 - (7)	郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。
---------	--

郷土愛とは、自分の生まれ育ったふるさとを誇りに思い、大切にすることである。この郷土を愛する心が基盤となって、愛国心も培われていく。社会の変化が著しく地域の人間関係も希薄になってきている今、郷土を愛する心を子どもたちに育むことが重要である。郷土をしっかりと見つめ、郷土の先人の努力を学習することにより、郷土を愛していこうとする心情を養わせたい。また、郷土の先人の努力が今の自分の生活につながっていることを理解させ、先人の思いや願いを受け継ぎ、次の世代に伝えたいという意欲や使命感も育てたい。

<児童の実態について>

本学級の児童は、総合的な学習の時間や社会科学習などを通して、里浦町についての知識が豊富になってきており、自分の郷土が自然豊かな町であることがわかり、里浦町が好きな児童が増えてきた。また、児童の数名が里浦町の主要な産業である農業や漁業に従事したいという夢をもっている。

しかし、アンケート結果によると、郷土の文化や伝統が自分たちにとってどのような意味があるのかについての理解は乏しく、先人の苦労や努力、周囲の人々からの恩恵を受けていることに気づかず生活している児童もいる。

そこで、自分と郷土のかかわり合いの中から、「郷土とは何か」を考え、郷土の中で生きている自分を見つめることができるよう指導していきたい。

<資料について> 資料名 「災害から郷土を守る」(自作資料)

本資料は、里浦町に住む松下恭司さんが災害から里浦を守るため努力と苦労を重ねて自主防災会を設立し、常時の活動を通して郷土の安全のために尽くしている話である。

松下さんが小学生の時、南海道地震によって親友を亡くしたという地震へのおそれと悲しみの経験が、防災活動をしようという思いにつながっていることをわからせたい。また、兵庫県南部地震での里浦の建物の倒壊や液状化現象による作物への被害などを乗り越え、自主防災会を設立したことや、松下さんの防災への強い思いとその心の裏にある里浦を思う心を読みとらせたい。そして、この資料について学習することで、自分たちの住んでいる郷土を愛し、郷土のために何ができるのかを考えていくきっかけにしたい。

<授業の工夫について>

① 資料選択の工夫

本資料は、松下恭司さんへの取材をもとに書き下ろした資料である。昨年度、総合的な学習の時間で、地域の防災について松下さんたちの指導で地域の立体模型を制作した。この体験を通して、児童たちには、郷土を災害から守る意識は高まっている。そのため、さらに自分たちの地域を守り、よりよくしていこうとする心情を高めていくために必要だと考え、この教材を作成した。

② 体験したことを生かす工夫

児童が制作した里浦町の立体模型を廊下に置いたり、児童が生き生きと体験活動している写真を用意し、体験活動を振り返らせる工夫をする。

③ 説話の工夫

ゲストティーチャーとして松下さんをお招きし、本人から具体的な話をしてもらい、児童の心情に訴え意欲を高めたい。

④ ワークシートの活用

ゲストティーチャーの話を聞いて学んだことをワークシートに書き、自分の生き方についてじっくりと考えさせたい。

(3) ね ら い

先人の努力を知り、郷土を愛し、郷土の発展に尽くそうとする心情や意欲を高める。

(4) 展 開

学 習 活 動	児 童 の 思 い	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 資料を読んで、話し合う。</p> <p>(1) A君を地震でなくした時の気持ち</p> <p>(2) 自主防災会が結成されるまでの気持ち</p> <p>(3) 自主防災会が結成されたときの気持ち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地震はこわいなあ。 ●たくさん被害がでたんだ。 ●二度とこんな悲しいことは起きてほしくない。 ●防災の関心が低いなあ。 ●もうこれまでだ、中止にしよう。 ●市や消防署は協力してくれるのだろうか。結成できるのだろうか。 ●友達の死はむだにはしたくない。 ●続けようか、やめようか。 ●あきらめないでよかった。 ●うれしい、念願がかなったぞ。 ●今日からが出発だ、しっかり活動しよう。 ●たくさんの人々が協力してくれた。 ●災害から里浦の人々を守るぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地震のこわさや友だちを亡くした悲しい気持ちに気づくことができるようにする。 ●ふたつの心の中で迷う心の葛藤に気づかせ、自分に照らしてその心情を深く考えることができるようにする。 ●自主防災会が結成された松下さんの充実感を捉えさせるとともに、郷土への強い思いを印象深く感じることができるようになる。
<p>2 ゲストティーチャーの話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●わたしたちが安全に生活できるように活動してくれているんだ。 ●松下さんは里浦を愛しているんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ●松下さんの話を聞くことにより、里浦を思う心の素晴らしさに気づかせる。
<p>3 自分たちの生活について振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●立体模型をたくさんの人たちに見てもらい、防災について考えてもらおう。 ●里浦町のために活動している人を見つけてみよう。 ●里浦町のために役に立ちたいな。 ●大手海岸を守りたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ●先人の思いや願いを引き継いで、次の世代に伝えていこうとする思いをワークシートに書かせる。 ●立体模型を作ったときの自分の気持ちや思いを振り返ることができるようにする。
<p>4 教師の話聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちの手で里浦町をよりよくしていこうとする意欲を高める。

(5) 評価の観点

- 私の郷土を思う心情に共感できたか。
- 郷土の先人の努力が、今の自分の生活につながっていることを理解できたか。
- 郷土を愛し、郷土の発展に尽くそうとする意欲がもてたか。

